

かけがえのない命、譲ることのできない平和を守るために、  
医療・介護・年金の改悪、改憲に反対していきましょう！

# 第25回ひまわり会総会

～祝ひまわり会25周年～

はじめに

25年前、県道拡幅工事のために立ち退きをせまられていた当時プレハブ造りの診療所を、現在の地に建設しよう!という気運の高まりのなかで、今は亡き柴田会長をはじめ多くの地域のみなさんの熱意が集まって、ひまわり会は結成されました。あれから幾星霜、会員のみなさんの支えがあって現在の診療所があること、みなさん一人ひとりとの絆が診療所の拠り所であることを思うとき、改めて、ひまわり会と診療所で織り成してきた地域医療が、かけがえのないものとして輝いて見えます。

ところが、このかけがえのない私たちの地域医療が危機に瀕しています。それは、「後期高齢者医療制度」が開始されたからです。

## <4月から開始された高齢者無視の「後期高齢者医療制度」>

4月後期高齢者医療制度が開始されて、予想されていたように高齢者の方々の大ブーイングが連日巻き起こっています。「制度自体がようわからん」「なんで年金からこんな大金を引くんじゃ。」「ギリギリの年金からこれ以上引かれたら生活ができません」「わしらを後期高齢者と呼ぶな」などなど、白島小学校の東隣にある広域連合には連日電話が殺到しているそうです。

## 後期高齢者医療制度とは?

何でこんな高齢者だけを国保や社会保険から引っっこ抜いて、別枠の医療制度に移したのでしょうか。政府厚労省の説明によれば、現在75歳以上の高齢者1300万人が2千万人を突破する「2025年問題」への予防措置として、高齢者の医療費を総額管理する制度です。

でも皆さん、今回の後期医療制度の保険給付費は10.4兆円で、高齢者の保険料の総額はその1割の1兆円に過ぎません。道路特定財源の50兆円のわずか2%を回せば保険料も無料にできるはずです。高齢者が2千万人になるから大変だ!大変だ!という政府の宣伝

に乗せられてはたまりません。高齢者だけ従来の医療保険から分離して総額管理するこの制度は、まさに現代の「姥捨て医療制度」とでも呼ぶべき代物です。

### **後期高齢者医療制度は定額制が目標**

後期高齢者医療制度では、これまでどおりの出来高制の診療か、後期高齢者診療料という聞きなれない定額制の診療か、患者さんが選択することになりました。この後期高齢者診療料は、厚労省によれば「高齢者の特性の一つに、何軒もの医療機関を掛け持ち受診する」ことがあるから、主治医を決め、同じ病名で複数の医療機関を受診をさせないための制度だそうです。広島県医師会や保険医協会も、早速これに反対する声明を出し、「後期高齢者制度」そのものにも医療関係者から批判の聲が上がっています。

反対の理由は、どちらの医療機関が主治医になるか患者さんの取り合いになったり、定額制の金額内での診療が粗診粗療(手抜き医療)に流れていく恐れが大きいからです。

### **後期高齢者医療保険は年金から天引き**

4月15日、年金から後期医療保険の天引きが開始されました。早速、銀行に行って天引きされた通帳をご覧になって驚いている方が多いのではないのでしょうか。広島県の場合で、2ヵ月に1回支払われる年金から天引きされる後期医療保険料は1人当たり平均11,150円になります。介護保険と合わせて約2万円が引かれます。僅かの年金から介護保険に加えて医療保険まで天引きする政治にわたしたちの未来を託すことはできません。

### **さらに待ち受けている負担増**

今回開始された医療制度は4月が前段で、10月から、サラリーマン家族の75歳以上の高齢者に猶予されていた保険徴収が開始されます。前期高齢者70歳～74歳の自己負担を1割から2割負担に引き上げる制度については、猛反対を予期したのか開始時期が来年度以降に先延ばしされましたが予断が許せません。本格的な高保険料・高自己負担の時代が到来したのです。

今回、1300万人高齢者をターゲットにした医療費削減の仕打ちは、現役世代にとっても「明日はわが身」の攻撃です。高齢者は、もうしかたがない、と諦めるお年寄りではありません。迷走する福田内閣に高齢者のパワーを示すときが来ました。みんなで“後期高齢者医療制度を廃案にしよう!”の声を上げていきましょう。

# 2008年度活動計画

4月に入って、診療所も後期高齢者医療制度の大混乱に巻き込まれ、連日その対策に追われています。新しく郵送されてきた保険証の確認だけでも大変。新しい制度をご説明し理解していただくのも一仕事です。スタート早々、福田総理はネーミングが悪かったと白々しくも「長寿医療制度」と言い換えたりしていますが、いまさら言ってもお終いよ。本当は政府にとって高齢者は削り節、削って何ぼの商売じゃ…と、ぼやいていても詮無い事です。

さて、今年はひまわり会25周年の節目に当たります。健康祭や調理実習のお手伝いに若い方が参加していただくようになって、世代交代が始まっていることを頼もしく感じています。まさに、医療・介護の世界も逆風が吹き荒れています。ひまわり会と診療所の全体の力でわたしたちの地域医療を守り前進させていきましょう。

ひまわり会の皆さんが何に将来への不安を感じ、診療所に何を望まれ、診療所がどのような将来計画を描くことができるか、皆さんと真剣に考えていきたいと思えます。

## 2008年

- 4月19日 第25回総会開催
- 6月11日 春のレクレーション  
(グリーンピアせとうち——食事と温泉・舞踊ショー)
- 6月 下旬 健康教室。 同日 世話人会(年間計画打合せ)
- 7月 後半 被爆者友の会総会
- 7月26日 「ヒロシマを語り継ぐ集い」
- 8月 6日 「ヒロシマ大行動」
- 9月20日 健康教室
- 10月22日 秋のレクレーション
- 11月23日 ひまわり会健康祭
- 12月 6日 世話人会忘年会

## 2009年

- 1月24日 健康教室
- 3月18日 調理実習
- 4月18日 第26回ひまわり会総会